

No.288 隔月刊

2026

4

つなぐ  
届ける  
ゆたかなくらし

UR 

—— 社会課題を、超えていく。 ——

 UR 都市機構  
<https://www.ur-net.go.jp/>

|                    |   |
|--------------------|---|
| 団地イベントピックアップ!      | 4 |
| 私もだんち特派員           | 5 |
| ボディメンテナンス講座／くらしの知恵 | 6 |
| かんたんヨガ             | 7 |
| 簡単おうちレシピ／プレゼント     | 8 |

編集・制作 ㈱高速オフセット

団地  
de  
ミック!

# インフラゼロハウスがやってきた! 防災と共助を学ぶきっかけに

男山

(京都府八幡市)

毎回テーマを決めて、団地生活の魅力を紹介する「団地deミック」。4月号は2月15日に、男山で行われたインフラゼロハウス設置のオープニングイベントの様相を紹介します。



(左から)川田翔子八幡市長、高原功UR西日本支社長、株式会社MUJIHOUSE川内浩司取締役



ガンボールベッドも設置されたインフラゼロハウス



ベトナム料理と豚汁が絶品!



非常用トイレの使用法の解説などがありました



## MUJI HOUSEとの 共同実証実験

2025年からUR都市機構とMUJI HOUSEは、バイオトイレ、太陽光発電、蓄電池等を実装し、上下水道等の既存ライフラインなしでも利用できるトレーラーハウス「インフラゼロハウス」を使った共同実証実験を行っています。太陽光発電や雨水の活用などを取り入れ、災害時にも自立した生活を目指す住宅で、地域の防災拠点としての役割も期待されています。2月15日から3月8日まで男山に設置され、八幡市や地域コミュニティ拠点「だんだんテラス」の協力のもと、防災イベントやコミュニティカフェ、マルシェなどのイベントを行いながら、住民と共に災害時や地域活性化のためのアイデアを探りました。

2月15日に、このインフラゼロハウスのオープンを記念したイベント「防災をきっかけに共助の団地へ」が開催され、団地住民や地域の人々など多くの来場者でにぎわいました。

## 食を囲んで広がる交流

当日は、八幡市の川田翔子市長も会場を訪れ、住民や関係者と交流しながら和やかな雰囲気の中でイベントが行われました。会場では団地内のベトナム料理店「ANNA

KITCHEN」によるベトナム料理や豚汁、防災食品が振る舞われました。ベトナム料理はチキンの生姜煮やタケノコの炒め物が用意され、優しい味わいで、エスニック料理ながら老若男女誰もがおいしそうに食べる姿が印象的でした。温かい食事を囲みながら自然と会話が生まれるなど、団地内の交流が広がっているようでした。

## 楽しみながら学ぶ 防災体験

他にも、アウトドアスクールによる防災体験イベントも実施されました。テント設営や防災に役立つアウトドア技術などを体験できるコーナーが設けられ、参加者はスタッフの説明を聞きながら実際に手を動かして学んでいました。金属製のマッチを使った火起こし体験では、何度も挑戦した末に火がつくと「ついたー」と声を上げて喜ぶ参加者の姿も見られました。

また、広場に設置されたインフラゼロハウスの見学も行われ、「トイレはどんな仕組み?」「蓄電池はどれぐらい持つの?」など、スタッフに質問する参加者の姿が多く見られるなど、来場者は興味深そうに説明に耳を傾けていました。防災をテーマにしながらも、体験や食事を通して住民同士が自然に交流する場となった今回のイベント。日頃からのつながりが、災害時に互いに助け合う「共助」の力につながることを期待されています。

水漏れ・断水・停電などのトラブルがあった場合  
24時間緊急事故時の連絡先

緊急事故受付センター ☎0570-004-001  
(または ☎06-6969-2151)